

令和7年度 外郭団体 概要・評価シート

1. 基本情報

団体名	株式会社 駿府楽市			所管課	産業振興課
所在地	静岡市葵区黒金町47	代表者	代表取締役 石井 靖幸	設立年月日	平成3年5月24日
基本財産	50,000千円	市出資額 (基本財産等に占める割合)		25,500千円 (51%)	
出資理由等	1980年から、市は静岡駅構内に地場産業のPR施設「静岡市特産品展示場」を設置していたが、地場産業界や市民から「地元の工芸品が購入できるお店を」という要望があり、1991年に、地場産品の展示及び販売機能を併せ持つ施設として「駿府楽市」を設置した。株式会社駿府楽市は、本施設の運営にあたり、静岡市と民間が合同で出資し、設立した団体である。				
設立根拠法	商法				
設立目的	地場産業の振興、PR及び地域経済の活性化				
業務内容	地場工芸品、郷土工芸品等の販売、宣伝PR等				

2 経営計画書の取組状況

(1) 取組実績

(令和7年度)

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
1	地場産品等の販売・市場開拓事業	売上（駅・駿府楽市店舗・イベント・外商）	285,900千円	292,354千円	
		新商品開発件数（楽市×職人コラボ商品等）	3件	2件	富士山柄下駄水引細工
	主要取組名称	取組概要・実績			備考
	地場産品等の店舗販売	駅店舗での地場産品・工芸品販売			
	催事イベントへの出店	各種催事、外部委託先等での出張販売			
	外商活動	行政機関、企業、各種団体からの求めに応じた商品の販売			
	団体意見	昨年度前半までのコロナ禍明けのリベンジ消費の消失や大雨などによる度重なるJR運休に伴う来店客の減少などもあり、消費動向が不安定な一年であったが、売上目標値は達成した。			
	市意見	昨年度までの市弔慰品事業の終了により、外商売上は前年を下回ったものの、新規の外商活動に取り組んだ結果、売上目標は達成した。加えて積極的な店舗販売やイベント出店を実施することで、会社全体の売上額についても前年を上回ることができたと考えられる。引き続き、売上確保に向けた積極的な取組をお願いする。			

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
2	地場産品等の情報発信事業	売上（駅・駿府楽市店舗・イベント・外商）	285,900千円	292,354千円	
		駅店舗レジ客数	109,000人	122,262人	
	主要取組名称	取組概要・実績			備考
	特産品展示コーナーの運営	常設展示や年間25回の特別展示による来場者への地場産品等の情報発信			
	パンフレット等、情報発信ツールの作成・活用	訴求力の向上を目的としたパンフレット、HP及びSNSの活用			
	団体意見	製作実演や体験ワークショップの開催や動画を使った展開など、商品展示に併せて賑わいを創出した。また、インターネット空間や各種メディアを活用した広報活動強化が効果を出し始めている。			
	市意見	売上だけでなく、駅店舗のレジ客数についても目標値を達成するとともに、前年実績を上回っており、効果的な情報発信が行われているものとする。			

3	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
	伝統産業の保存・継承・人材育成事業	駅店舗レジ客数	109,000人	122,262人	
		社員業務提案件数	10件	7件	企画展示の提案 改装に向けた視察など
	主要取組名称	取組概要・実績			備考
	特産品展示コーナーの運営	常設展示や年間25回の特別展示による来場者への地場産品等の情報発信			
	団体意見	目標管理を軸にした人事評価制度の導入により、社員の適性を踏まえた能力開発を進めているが、社員業務提案件数は目標未達となった。			
	市意見	人事評価制度や各種就業規則の見直しをはじめ、会社のガバナンス強化を進めていることは評価できる。今後も、伝統産業の保存・継承に向けた人材育成や組織体制の強化を期待する。			

(2) 施策や取組実施に係る現状分析や課題

・売上は目標値を達成しているものの、漆器や竹細工、下駄などの主力工芸品については前年比5～10%程度減少している。工芸品や地場産品のさらなる販路拡大に向け、消費者のライフスタイルや価値観、贈答習慣の多様化に対応した商品開発が必要である。

・レジ客数は目標値を達成しているものの、新たな顧客層の獲得に向け、商品の魅力や情報の価値を実感し、購買等の行動につなげられるよう、情報発信の内容や方法を工夫する必要がある。

(3) 現状分析や課題に対する対応方針・具体的な取組

現状分析や課題に対する対応方針・具体的な取組内容	対応状況
食品は担当者厳選の特産品を充実させた逸品コーナーの設置。工芸品は、「日常使い」と「高付加価値・贈答品」の2ライン展開により客単価向上を図る。	対応実施済
新ファン層の獲得。静岡ならではの商品提供により、従来のシニア層に加え、本物志向の若年層やビジネスギフト需要を開拓。	対応着手
収益率の改善。オリジナル商品の開発促進、価値に見合った売価設定の見直しを行い、重点目標である粗利率向上を目指す。	対応着手
空間デザインと情報発信。照明、什器等を刷新し、商品の魅力を最大化する演出。また「駿府の工房匠宿」と連携したコーナーや外壁面の映像ビジョンを利用し、静岡の魅力を発信。	対応実施済

3 団体の財務・人員の状況

(1) 収支状況(千円)

区分		R5年度決算	R6年度決算	R7年度決算	備 考
収入	事業収入	299,206	309,005	308,848	
	事業外収入	1,846	4,142	2,559	
	その他	0	0	0	
	合 計	301,052	313,147	311,407	
(静岡市からの収入総額)		16,478	18,469	15,705	
支出	事業支出	296,627	304,421	305,163	
	事業外支出	3,335	5,405	4,177	
	その他	0	0	0	
	合計	299,962	309,826	309,340	
収支差		1,090	3,321	2,067	

(2) 資産の状況(千円)

区分		R5年度決算	R6年度決算	R7年度決算	備 考
資産	固定資産	8,026	7,136	9,119	
	流動資産	116,424	121,518	119,286	
	合 計	124,450	128,654	128,405	
負債	固定負債	9,627	12,747	14,599	
	流動負債	27,216	28,399	25,098	
	合 計	36,843	41,146	39,697	
正味財産	基本財産／資本金	50,000	50,000	50,000	
	剰余金等	37,607	37,507	38,708	
	合 計	87,607	87,507	88,708	

(3) 役員・職員の状況

ア 役員数(人)(R8.4.1)

	評議員		理事	
		内市退職者・派遣		内市退職者・派遣
常勤	0	0	2	0
非常勤	0	0	0	0
合計	0	0	2	0

イ 職員数(R8.4.1)

	正規職員	非正規職員	市退職者・市派遣	合計	備 考
R6	7	11	0	18	
R7	6	12	0	18	
R8	6	12	0	18	

（４）財政・人員体制の現状分析や課題

（収支）直近３年間の単年度収支は黒字で推移しており、安定した経営状況にある。一方、仕入原価や人件費の上昇に加え、エネルギー価格を含む諸物価の高騰が事業支出を圧迫しており、黒字経営を維持しているものの、利益水準は低い状況にある。

（財産・資産）無借金経営であり、資産状況も健全で、高い自己資本比率と十分な流動性が確保されている。

（人員体制）少人数の正規職員、嘱託社員及び常勤役員が、それぞれ複数の業務を担う体制となっており、限られた人員で事業を運営している。

（５）現状分析や課題に対する対応方針・具体的な取組

現状分析や課題に対する対応方針・具体的な取組内容	対応状況
人件費や賃料等の固定的支出比率が高い収益構造であることから、売上水準を一段階高め、安定した収益構造に転換。	対応着手
若手人材の採用や職員のスキルアップに向け、担当業務を固定化せずに適宜配置転換を行い、限られた人員で効率的に業務に取り組めるよう人材を継続的に育成。	対応検討中

4 全体総括・評価

外郭団体
・経営計画書に基づき、市の方針に沿った取組を着実に実施することができている。 ・収支状況は安定しており、財務指標も健全に推移しており、団体経営としては良好。 ・一方で、人的・財務的リソースの制約から、新たな事業展開を図るには経営体制の強化が不可欠。 ・中長期的には、継続的な売上拡大と人材の戦略的配置を進めることで、経営基盤を強化することが求められる。
静岡市
市の方針に沿った取組を着実に実施できていることは評価できる。令和８年度に計画している「特産品展示コーナー」及び店舗の改修を契機に、展示内容や商品構成を一新し、高単価・高付加価値の商品を含む静岡の地場特産品のPR・販売拠点として刷新することで、さらなる地場産品等の展示・販売や情報発信の充実を期待したい。